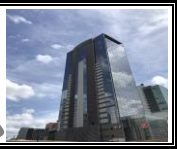
上段の丘



一関市立川崎中学校　学校だより
令和８年９月８日　第11号
文責　校長　齋藤　真

大盛況の第32回北上川流域交流Eボート大会
川中生、真のボランティアで地域活性化に貢献



９月６日（日）、心地良い気候の中開催された第32回Eボート大会。昨年度は３年生が総合的な学習の授業の一環として参加しましたが、今年度から純粋なボランティア活動として参加を募ることとしました。当初はどのくらい参加してくれる生徒がいるのかやや心配もしましたが、さすが地域を愛する川中生。１７名もの生徒がボランティア・スタッフとして参加し、チームとしても大会に参加しました。やらされるのではなく、「地域を盛り上げたい、地域の活性化に貢献したい」という真のボランティア精神で臨んでおりました。「川中生はすごい！」。これまで地域の方から何度も言っていただいた言葉ですが、この日の称賛には自分の学校の生徒ながら「すごいです」と同感しました。



ボランティアとは、「自発的に、人が人として共に助け合って生きる社会を目指して、無償で時間や労力を提供する行為」のことを言います。**自発的な意志による、見返りを求めない行動**なのですね。このような行動を自然と出来ている自分を、誇りに思ってください。このような行動を一緒に楽しみながら出来る仲間を、これからもずっと大切にしてください。川中生のボランティア精神とボランティア行動は、川中の清掃文化と合唱文化に並ぶ、かけがえのない価値あるものです。



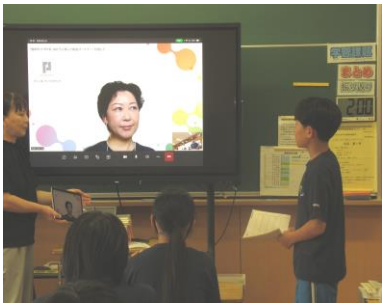
スパイラル・アップを目指そう！キャリア・ワークショップ

９月８日（火）、キャリア教育の一環として、全校でキャリア・ワークショップの授業を行いました。講師として、東京から「パーソルホールディングス株式会社」の綿引裕也さんをお招きし、“はたらく”ことについて、じっくり考えました。綿引さんからは、「物事を考えられる人は、自分で決断できる人」、「日頃から『なんで？』と思うことが大切」、「世の中が変わるスピードは上がっている。１０年後の自分たちの生活を考えてみよう。１０年後の生活は今と変わっている。だから仕事も変わる。」、「今日本には、19,000種類の仕事がある。だから皆さんに合う仕事が必ずある。だから、たくさんの仕事を知ることが大切です。」など、論理的かつ納得感のある、印象に残るお話をたくさんいただきました。グループトークでわいわい協議したり、リモートを使ってパーソルで働く方へのインタビューを行ったりと、バラエティ豊かなワークショップでした。



綿引さんが最後に、「仕事は『自分のため→人のため、社会のため→自分のため…』とどんどん高まっていくもので、それをスパイラル・アップと言います。」と話していました。これは仕事だけでなく、勉強も、学校生活も、そして人生もそういうものだと感じました。今日のキャリア・ワークショップを通じて、皆さんの学校生活がさらにスパイラル・アップしていくことを期待しています。





白熱！ビブリオバトル



２年生の国語の授業と川崎図書館のコラボレーションで実現した「ビブリオバトル」。ビブリオバトルとは、ビブリオ（書籍）＋バトル（戦い）の造語で、ゲーム感覚を取り入れた書評合戦です。自分のおすすめ本を持ち時間（３～５分）で紹介してディスカッションし、どの本が一番読みたくなったか、チャンプ本を決定するというものです。自分の紹介したい本について熱く熱く語り合い、大いに盛り上がりました。今回のチャンプ本は、『死んでも人に言えないヒミツ』。皆さんもぜひお手にとってみてください。